

原発港内において、高濃度の放射性セシウムがムラソイから検出されたことについて

平成25年1月18日

福島県水産試験場

【ムラソイ】

地方名：クロガラ（県全域）、ガラ（県全域） バッコ（いわき）、タコクイ（県全域）

- 北海道南部以南の日本各地に分布。岩礁域にすみ、さし網や釣りなどで漁獲される。
- 福島県におけるソイ類全体（統計ではガラ類）の漁獲量は、震災前の5年間で年間6～10トン程度であり、本種はキツネメバルやクロソイとともに主要な種の一つとなっている。
- 全長23～25cmのもので年齢は10歳以上であり、また稚魚の飼育試験からもソイ類の中では成長が遅いことが推測されている。
- モニタリングで採捕された31検体の採捕水深は3～23m（平均11m）の磯場で、沿岸性のメバル・ソイ類の中でも最も浅い場所に生息している。
- 他のソイ類も含めた標識放流試験の結果では、移動はそれほど大きくないと推測されている。
- これまでのモニタリングでは、近縁のシロメバルと同様セシウム濃度が高いものが多く、現在でも100Bq/kgを超える個体がみられる。
- 今回、ムラソイで高濃度の放射性セシウムが検出されたのは、第一原発港内において高濃度汚染水に接触していたことが要因と推測される。

【タケノコメバル】

地方名：モ

- 北海道南部から九州までの各地に分布。沿岸の岩礁域にすみ、さし網や釣りなどで漁獲される。
- 福島県における漁獲量は、他のソイ類を含んだガラ類として年間6～10トン程度であり、本種は県北部で若干の水揚げがある程度と推測される。
- 他県の調査事例では、2歳で全長約16cm、3歳で約22cmと成長は比較的遅い。
- 他県の標識放流試験では、ほとんどが放流地点周辺で再捕され、移動が小さいことが推測されている。
- これまでの県のモニタリングでは採取されていない。
- 今回、高濃度の放射性セシウムが検出されたのは、第一原発港内において高濃度汚染水に接触していたことが要因と推測される。

【試験操業対象種について】

- 13魚種の内、ミズダコ、スルメイカ（マイカ）、ヤリイカについては、浅海域にも来遊する可能性はあるが、主な分布域は沖合であり、長期間にわたり浅海域に留まることは少ない。また、軟体類は一時的に放射性セシウムを取り込んだとしても速やかに排出されるので、ムラソイやタケノコメバルなどの定着性の魚類と違って高濃度になることは考えられない。
- その他の10種については、沖合にしか分布しないので第一原発港内の影響は受けない。
- この他、第一原発港内に分布が確認され、注意を要する魚種にアイナメ、マアナゴ、エゾイソアイナメ（ドンコ）がある。

参 考

県統計でガラ類としている主な魚種

キツネメバル 地方名：クロガラ、ガラ、ソイ、マガラ	クロソイ 地方名：クロガラ、ガラ、ソイ、メジナ
ゴマソイ 地方名：クロガラ、ゴマガラ、ナツバオリ	タケノコメバル 地方名：モ
ムラソイ 地方名：クロガラ（県全域）、ガラ（県全域） バッコ（いわき）、タコクイ（県全域）	